



コロナについて考える ～ 宇宙船「地球号」

私たちは今、国や地域を問わず、新型コロナ・ウィルス（以下「コロナ」）という**人類共通の敵**と対峙している。目下、日本では感染が「第3波」として拡大している局面にある。私たちは、**自分でできることに**（流行りの表現を借りれば）**「全集中」して取組まなくてはならない。**

ヒトの免疫機能とウィルスとの闘いは、両者互いに「生き残るため」である。感染した人の中に無症状の人がいるのは、ウィルスが自己拡大するための巧妙な作戦でもある。私たちは、こうしたウィルスとの地球史的な激しい闘いの最新場面を生きている。



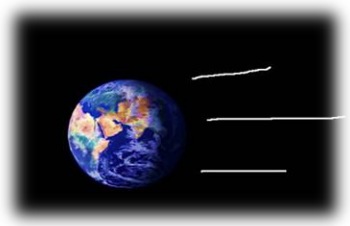
14世紀のペストでは、世界人口4億5千万人の22%（1億人）が死亡したとされる。北里柴三郎（1853-1931）らにより原因菌が突き止められ、死亡者数は減ってはきているが、現在（2004-15年）でも感染者6万人、死亡者は5,000人もいる。**第一次世界大戦中のスペイン風邪**は、1918-19年に大流行したインフルエンザ・ウィルスで、世界19億人の27%（5億人）が感染し、日本では

北里柴三郎 感染者2,380万人、死亡者38万人を数えている。この度の**コロナ**は、11月末現在、世界感染者6,000万人（日本14万人）、死亡者143万人（同2,000人）、1日の新規感染者は日本2,500人、米国では20万人に迫る状況である。（数値は概数）

このコロナの感染防止には、言わずと知れた「3密」の時空間を避けることである。加えて次の3つ、**H・A・M**--- **手洗い**（Hand wash）、「**換気**」（Air）、それに「**マスク**」（Mask）を強くお願いしたい。マスクは、**服を着るような当たり前の感覚で常時着用を心がけ、特に人と話をする時には必須アイテム**である。この「HAM」は、**自分のために・みんなのために**、学校という集団生活をする上での最低限のルールとしたい。“With Corona”の時代、それも感染が拡大する今、『**自分のために**』をもう少し深く考え、『**みんなのために**』をもう少し強く思うようにしてもらいたい。

しかしながら、ウィルスは見えないので、いくら細心の注意を払っていても完全に防ぐことは不可能である。**細心の注意を払った人が罹患しても、その人こそは被害を受けた人だといえるのだから、責めることはできない。そういう人がいた場合には、思いやりの気持ちをもって、みんなで早期の回復を願うようにしよう。大切なことは、自分でできる「HAM」をやい切って、感染リスクをできる限り低減する努力をしておくことである。**

先月16日、野口聡一さんらが乗り組み、地球を飛び立ったロケットは「レジリエンス号」と名付けられた。**Resilience**とは、私たちが持っている**「変化に対処する能力・回復力」**を意味する。人類社会が一致してコロナ禍からの回復を願う、というメッセージである。そういえば、普段はあまり思い浮かぶことでもないが、空を見上げていると、大地はいくつかに隔てられているその一方で、**雲や風は一つの空でつながっている**ことに気づく。地球は一つの「宇宙船」であり、私たち一人ひとりとは**「宇宙船地球号」の乗組員**であるといえるのではないか？！



話は少し大きくなったが、皆さんには**「みんなのために」**を強く意識し、コロナに対する心構えを改めてお願いしたい。念のため。